

【地域活動ノート】

医療栄養学科におけるアクティブラーニングを介した 学生の自己効力感の向上に対する試み

～医療栄養学概論演習による高麗川プロジェクトの活動報告～

岩田直洋*・古屋牧子*・関口祐介*・君羅好史*・大澤吉弘*・松本明世*・真野 博*

活動の概要

薬学部医療栄養学科（管理栄養士養成課程）では、1年次から4年次まで様々なアクティブラーニングなどの体験学習を継続的に実施することで、学生の自己成長に繋げる教育を実践している。その一環に高麗川プロジェクトへの参加があり、地域のシンボルとして馴染み深い高麗川をテーマに「環境」と「食」が密接に関係していることを体験する中で、地域活動に対して学生が自主的・主体的に取り組みながら管理栄養士として必要な知識や技能を養っていくことを目的としている。今回、地域活動が自己効力感などへ与える影響をアンケート形式で調査したので、その一部を報告する。

キーワード：管理栄養士養成課程、自己効力感、高麗川プロジェクト、高麗川かわガール、美化活動

自己効力は、課題達成に必要な行動を首尾よく行う能力の自己評価として定義されており、ある行動に対して自身がその行動をどの程度できるかという自信を指すものである。この自己効力感が高いほど物事に対して積極的に粘り強く取り組めるようになり、より良い結果を得られやすくなる。近年の大学教育において、学生の自己効力感の低下が問題となり、学習意欲や就職活動など様々なことに影響していると言われている。管理栄養士を養成する薬学部医療栄養学科では、この自己効力感の向上が大学生活あるいは社会人となつてからも重要と考え、それを向上させる方法として継続的なアクティブラーニングが有用であると捉えて実践している。

城西大学では、これまでに高麗川プロジェクトとして近隣地域との連携に基づく教育活動、地域活性化や共同体意識の啓発を支援・推進することを目的に様々な活動を実施してきた。その中でも本学科では、有志学生が任意団体である「高麗川かわガール」を立ち上げ、定期的に高麗川の美化活動や生態系調査を実施し、その情報を発信している。例年、この活動は1年生の前期に体験し、これから管理栄養士を目指していく学生が調理に伴う台所排水と水質環境の問題を身近に考えるとともに、高麗川の美化活動までを1つの体験学習とすることで「環境」と「食」が密接に関係していることを学ぶ機会としていた。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で前期に実施できずにいたことから、後期科目である「医療栄養学概論演習」内で実施し、授業後には自己評価アンケートなどを行ったので、その一部を報告する。

医療栄養学科1年次生（20期生）93名を対象に学生が自主的・主体的に地域活動に取り組むことで、現状の自己効力感に対してどのように評価するかを21項目からなる自己評価アンケートの形式で調査した。その結果、図1（一部抜粋）に示すように「好奇心を持つ力」や「相手指向で考える力（ホスピタリティ）」について多くの学生が高い（優れているまたは、少し優れている）評価を示した。一方で、「伝える力」や

* 城西大学薬学部医療栄養学科

「自己を肯定する力」が全項目のなかで比較的劣っていると捉えていることも明らかになった。達成感や成功体験は自己の自信へと繋がり、自己効力感が高まることで、様々な物事に対して積極的に取り組めるようになることが言われている。また、体験学習後のリフレクション（振り返り）は、学習効果を高めることも知られており、図2の学生の感想からも多くの「気づき」があったことが伺えた。また、事後アンケートでは「講義前に比べて環境への取り組みに対し、少しでも行動変化が生じたか？」の問いに対して、82%以上の学生が「はい」あるいは、どちらかといえば「はい」と回答した。

自己効力感の低下は、大学生活のみならず就職してからの早期離職の要因にも繋がると考えられており、自己効力感の向上にアクティブラーニングを活用することが有用であると思われる。医療栄養学科では、大学4年間において高麗川プロジェクトをはじめ、専門職連携（IPW）実習やがん患者さん向けレシピ作成など様々なアクティブラーニングを教育に取り入れており、これら総合的な活動効果が学生の自己効力感の向上に繋がると考えており、今後も実践とその有用性を評価していく考えである。

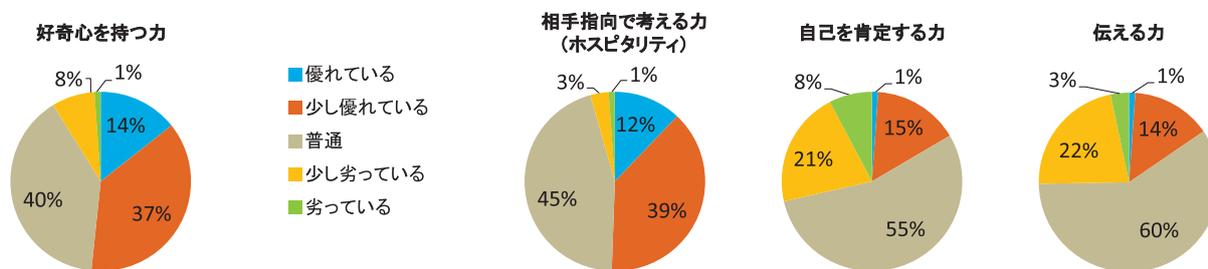


図1 自己評価アンケート（調査項目の一部）

川の環境を綺麗に保っている背景には、地域の人々の協力や城西大学の川ガールによる活動があるからこそだと今回の活動で身をもって感じる事ができました。事前学習で「なぜ川はきれいでなければならないのか」という議題について、身近に関する大事な議題として深く考える事ができました。

良い環境づくりの一環として行なっている高麗川清掃の活動にかなり興味を持ちました。管理栄養士として食に携わる職業に就きたいと考える私たちにとって、今回の体験は改めて生物の生きる環境と食のつながりを考える良い機会となったと思います。

水質汚染、環境破壊に繋がらないようにする為にも、掃除などをして川を綺麗に保つ必要があると思いました。大学では川ガールなど様々なボランティア活動があり、積極的に参加して綺麗な川の維持に貢献出来れば良いなと思います。

川をきれいにするためには、地域や大学の活動に加えて、個人一人ひとりの川をきれいにするという意識が大切だと思いました。清掃活動中に、地元の方と話す機会があり、城西大学の活動にとっても感謝しているとおっしゃって頂き、これからも大学の活動に積極的に取り組んでいきたいと思いました。地域全体で川の環境が保たれていることに気づきました。

図2 体験学習後の学生感想（抜粋）



図3 高麗川の美化活動を実践する医療栄養学科1年次生（20期生） 2020年10月30日